議長	副議長	議長補佐	局長
決裁	年	月	日

（様式第１号）

令和５年３月３１日

陸前高田市議会議長　福　田　利　喜　　様

会派名　　日本共産党陸前高田市議団
代表者職氏名　団長　藤　倉　泰　治

政務活動概要報告書

政務活動費に関する取扱要綱第６条第２項の規定により、令和４年度政務活動の状況について報告いたします。

記

１　調査研究事業

特になし

２　研修事業

⑴　第６回食と漁の地域未来フォーラム

内　容　小規模・沿岸漁業の進行や水産資源の管理について考える

日　時　令和４年７月24日（日）午後１時30分～午後４時30分

場　所　陸前高田コミュニテイ・１階シンガポールホール

主　催　JCFU 全国沿岸漁民連絡協議会、岩手県漁民組合、岩手県農民連、21世紀の水産を考える会

研修内容

来賓あいさつ　菅野泰浩氏（陸前高田市水産課長）

特別報告

二平章氏（茨城大客員研究員）

小規模家族農業・漁業が世界の全農業・漁業経営体の９割以上を占め、食料の８割を生産している。国連が2022年を「小規模電灯漁業・養殖漁業年」として定め、その役割が再評価され支援が求められていることを強調した。

各地の報告

千葉県沿岸漁船漁業協同組合（千葉県勝浦市）

キンメダイの資源管理の取組み

栗原春樹氏（21世紀の水産を考える会）

東京電力福島原発事故の汚染水海洋放出は中止すべきと主張。代替案として原発建屋内への地下水流入を止めて汚染水をこれ以上増やさず、大型タンクでの陸上保管や、地か1200mへの大規模貯留などを具体的に示し、政府の真剣な検討を求めました。

地元の若手から

広田町の大和田さん

カキを専用カゴに入れ波の力を利用して成長させ、環境改善も考えた取組の報告。

陸前高田市議会
5.3.31
第　号
受付

越喜来の中野さん
　早朝から大変なホタテ養殖作業について、働き方改革の取組の報告
米崎町の佐々木さん
　三代続くカキ養殖を引継ながら、生産・販売・流通の工夫や、貝毒対策への考えを報告。
意見交換・交流　　参加者からの質問や意見で意見交換
伊勢純議員も陸前高田市の漁業支援策について報告した。
全国や市内から漁業者、自治体関係者、地方議員ら約50人が参加した。

(2)　きょうされん第45回全国大会in東北・いわて
　テーマ　「ここから　つたえ　つなぎ　あしたを生きる―東日本大震災から11年目の『ありがとう』を全国に。震災の真実と教訓を未来（あした）へつなぐ―」
　日　時　令和4年9月30日（金）午後1時～10月1日（土）午後3時
　場　所　夢アリーナたかた（陸前高田市総合交流センター）、市民文化会館、コミュニテイホール他
　主　催　きょうされん
開催内容
オープニング　あんべ光俊
主催者あいさつ　斎藤なお子理事長（きょうされん）
　震災やコロナ禍、ウクライナ侵攻で社会のもろさが表れたとし、「自助や自己責任論では決して人権は守れないことを強調した。
基調報告　藤井克徳専務理事
　日本社会の表層では障害者政策が進む一方、深部の障害者差別は残ろと指摘。障害者らに不妊手術を強制した旧優生保護法の被害を、市民的課題に引上げ解決しようと訴えた。
　公開特別シンポジウム
　「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」から学ぶ地域づくり
　戸羽太市長が、復興にあたりめざすのは「障害のある方もない方も、みんなが安心して暮らすことが当然になる社会」と発言。障害者と相談しながらバリアフリーをめざした公共施設をつくった経験を紹介しました。
　奈良県から参加した女性は、大震災時に陸前高田市での障害者実態調査で会った自閉症の青年について話しました。
　市社会福祉協議会、福祉団体の代表も発言しました。
二日目　特別分科会
　全国から300人の利用者を吹き有無1,400人が参加し、また、400人の地元のボランテイアが大会を支えた。
研修内容
　全国の共同作業所の活動を直接知ることができ、どこにどんな問題課題があるかを知ることができた。障害者の方々も明るく元気に活動していることをまなぶことができた。

主催者からの説明では、全国大会がこれまで大都市で開催されてきたが、今回初めて地方都市になったことで、陸前高田市の被災地の活動とノーマライゼーションの取組を評価していただいたが、今後の新たなまちづくりの実践の一歩になったことを実感し学んだ。

市内の各団体のみなさんのボランテイア協力は全国の皆さんからも共感をもって受け止められたようだった。陸前高田市の市民の力、やさしいまちづくりのエネルギーは大きいものがあると議員としても学ばされた。

(3) 第67回岩手県母親大会 in 陸前高田

日　時　2022年11月5日（土）　午前10時～午後3時

場　所　陸前高田市民文化会館・奇跡の一本松ホール

主　催　第67回岩手県母親大会実行委員会

大会の内容

記念講演　講師　安田菜津紀さん

演題　「被災地、紛争地に生きるこどもたち～現場取材から考える平和～」

震災後何度も陸前高田市に足を運んだフォトジャーナリストの安田さんが、戦火のウクライナやシリアで避難民を撮影し、発信してきたと語り、「子どもの表情は社会の指標です。戦争で子どもが笑わない社会ではいけない」と訴え、被災直後の米崎小仮設団地等での交流も話しました。

地元の実行委員も舞台でリレートーク

避難所での炊き出し、ウクライナ支援募金、年金引下げ反対宣伝などを報告

分科会①子どもたちがいきいきと毎日をすごすために

～語り合おう　心の健康について～

②手渡そう　平和な未来を子どもたちに

～21世紀を戦争のない世界に～

③老後を安心して暮らすために

～税金の使い道と社会保障、医療、介護～

④熱波、集中豪雨など異常気象はなぜ繰り返し起こる？

～地球温暖化、気候危機を考えよう～

⑤シンポジウム　被災地最大の復興事業と持続可能なまちづくりへ

コーデイネーター　五味荘平さん（岩手大社会科学部教授）

パネラー　大林孝典さん（ピーカン農業未来研、しみんエネルギー㈱）

熊谷　幸さん（熊谷珈琲店）

平山　直さん（自伐林業家）

越戸　園佳さん（高田暮舎）

大会決議・宣言

「生命を生み出す母親は　生命を育て　生命を守ることをのぞみます」の大会決議を確認

参加者　県内市内から541人が参加。

研修内容

記念講演で、ウクライナ、シリアの戦争状態の中での子どもたちの現状を聞き、戦争をやめさせるための国際世論形成が重要と感じた。また、震災直後からの仮設住宅や漁業者の苦労を見てきたことを話していただいた。当時から現在まで一人ひとりの気持ちをあたたかく受けとめていただいていると思った。

分科会では、各議員がテーマごとに研修した。現地分科会では案内役で説明もおこなった。

大震災津波から 11 年。県内の参加者とともに今後の防災を改めて学ぶ場になったと思う。

3　要請・陳情活動

(1)　日本共産党気仙地区議員団の第５次気仙２市１町首長への申し入れ活動

内　容　新型コロナウイルス感染症対策について、陸前高田市舟波副市長、神田謙一住田町長に緊急申し入れ書（5 項目 16 点）を提出し、懇談を行った。

日　時　令和４年８月３日（水）午前 10 時～　陸前高田市　舟波副市長
午前 11 時 30 分　住田町　神田町長

場　所　陸前高田市役所、住田町役場

参加者　藤倉泰治、大坪涼子、伊勢純、滝田松男大船渡市議会議員、佐々木春一住田町議会議員

(2)　三陸国道事務所の騒音調査結果説明会と月山団地の要望活動

内　容　月山団地の有志からの要望により、国土交通省が三陸道沿い騒音調査を実施し、その結果についての説明が関係住民にあった。その内容は基準以下だった。それを受けて地元関係者から、新ためて騒音被害の状況が話され、三陸国道事務所として騒音防止対策について検討するという回答があった。

日　時　令和５年２月 21 日（火）午後１時～午後３時

場　所　気仙町月山団地・湊公民館」

参加者　三陸国道事務所　小野所長以下職員８名
地元　月山団地の住民８名　藤倉泰治も同席

4　広報事業

(1)　議会報告の広報紙の発行

内　容　日本共産党発行「陸前たかた民報」の中に定例会等の議会報告を特集して掲載し、各戸に配布した。

発行回数　３議員それぞれ年４回発行した。